

平成 26 年第 3 回定例会 ヘルスケア・ニューフロンティア政策調査特別委員会にて質疑いたしました。

小野寺委員

知事がヘルスケア・ニューフロンティア構想を打ち出してから、もう早くも 1 年半が経過をしております。最初はどうも据わりの悪い言葉だなと思っていたんですが、ようやく我々の耳にもなじんできたかなと思います。最先端医療関連産業、未病産業の創出や国際展開等、様々な展開を見せていると思うところですが、私たちはこうして委員会で個別の事業について、いろいろなやりとりをさせていただいているので、それなりに理解は深まっているかなと思うんですが、それぞれの事業が知事のおっしゃるところのヘルスケア・ニューフロンティアの実現にどういうふうに寄与するのかというところを、もう一度整理をしてみたいと思っています。

先ほども質疑がありましたけれども、県民の皆さんの間にこの概念が普及しているとは、なかなか言いにくいのかなというふうにも感じておりますし、また、県民の皆さんはもちろんのこと、例えば県職員の方々も新しくヘルスケア・ニューフロンティア推進局ができたということは、当然、御存じでしょうけれども、ヘルスケア・ニューフロンティアというのはどういう姿を理想としていて、そこに向かって今、どのぐらい進んでいるのか、進捗しているのかということについては、なかなか担当部局にいらっしゃる方でないと分からないところがあるのかなと思います。これは我々議員も同じなのかなと思います。

先ほど申し上げたように、種はもうじゃんじゃんまかれているというふうに私も思っているんです。では、果たして芽は出たのか育っているのか、あるいはつぼみはできたか、花は咲いたか、1 年半ですからその辺りはなかなかまだ分からないところで、そんなに性急に成果を求めているわけではないんですけれども、ヘルスケア・ニューフロンティアに至るその道筋をどういうふうに描いているのか、あるいは今、その道筋のどの辺りにいるのか、その上で今後どのような課題があるのかというようなことをお尋ねしていきたいと思っています。

あえて初歩的なことをお伺いすると思いますが、県民の皆さんに私たちも分

かりやすく説明しないといけないということがありますので、是非分かりやすくお答えを頂きたいと思います。

まず、ヘルスケア・ニューフロンティア構想の目的や考え方を、確認の意味でお伺いしたいと思います。

特区連携担当課長

我が国は、世界で最も高齢化が進んでおり、その中でも本県は全国でも一、二を争うスピードで高齢化が進んでいます。ヘルスケア・ニューフロンティアは超高齢社会到来という急激な社会変化を乗り越え、誰もが健康で明るく生きる社会を目指す神奈川の新たなプロジェクトでございます。超高齢社会という待ったなしの問題に対応する解決策として、最先端医療や科学技術の追求と未病を治す、この二つのアプローチを融合するという考え方によって、健康寿命日本一、そして新たな市場や産業を創出する、このような目的を持って取組を進めているところでございます。

こうした目的の下、超高齢社会に取り組むための神奈川モデルとして、最先端医療産業や未病産業の創出などに取り組んでいるところでございます。

小野寺委員

御説明いただいたヘルスケア・ニューフロンティアを推進することによって、どのような姿を目指しているのか、その具体的なイメージをお聞かせいただければと思います。

特区連携担当課長

ヘルスケア・ニューフロンティアを推進することによって目指す姿のイメージですけれども、例えば最先端医療産業を創出することによって、個別化医療が進展することが想定されます。個別化医療の進展によって、例えば薬の投与ですとか遺伝子レベルで患者さんの状態を知ることによって、薬剤の効果が高まる。なおかつ身体への負担や副作用を少なくするといったことが可能というふうに期待されております。

それぞれの体質に合った最適な医療が提供されていく。患者さんにとってメリットが高く、リスクが小さくなるような医療が提供されていくといったようなことをイメージしております。

また、未病産業を創出することによって、日常生活に負荷をかけることなく24時間365日、健康情報が蓄積され、適切なタイミングで健康管理が行われるようなサポートがなされることが想定されます。

さらに、こうした最先端医療産業や未病産業が神奈川から創出されることによって、高いものづくり技術を有する中小企業や、革新的な技術を持ったベンチャー企業の活躍の場が増えることが想定されます。県の取組に関心を持つ企業の立地が促進されることも想定され、こうしたことによって県の経済が更に活性化することが期待されます。

小野寺委員

これまでさんざんお聞かせいただいていたことと重複する内容でございましたけれども、このヘルスケア・ニューフロンティアの構想、この目的や考え方、あるいは具体的なイメージを確認をさせていただきました。それを前提に何点かお伺いをしていきたいと思います。

まず、二つの柱の一つとして最先端医療というのが出てきました。この最先端医療に関する取組というのが目指す姿ですが、その実現にどうつながっているのか。先ほど冒頭申し上げた目指す姿の実現に至るまでのこの道筋をどういうふうに描いていくのか。また、その道筋の中でどの辺りにいると考えたらいいのか、その上で今後どのような課題が想定できるのか、その辺りの最先端医療の取組について、まずお伺いをしたいと思います。

ライフイノベーション担当総括主幹

一つ目の大きな柱でございます最先端医療の提供で、我々が思い描いている道筋でございますが、二つの大きな側面があると思っております、一つは県民の皆さんの目から見て、いち早く最先端の医療が身近で受けられるようになる。それが健康寿命の延伸や、県民の生活の質の向上につながっていく。やはり普段よそでは受けられない医療が神奈川県で真っ先に受けられるようになりましたねというような姿というのは、一つの側面だと思っております。

その道のどの部分にいるのかというお話でございますけれども、一つは先ほど国家戦略特区の区域計画にも、具体的にこういう特例を使って最先端医療を提供していきたいというフレームがもう既に今の中でも三つ出ております。こういった中で進んでいるものもございますし、再生・細胞医療やiPS等も、まだまだ道半ばですけれども、これから実際の実用化につなげていきたいというものもございます。これも出口に向かって頑張っていきたい。

もう一つの部分は、やはり経済的な面でございます、多くの企業に参画いただいで、その産業が伸びていく。これによって雇用も創出されて経済が伸びていくという側面もございます。

これらの課題でございますけれども、やはり委員がおっしゃいましたように、多くの県内企業に参画いただくということも一つございます。医工連携といった、中小企業になるべくそういったところに参画いただいて、多くの企業が参画いただくという側面もございますし、やはり基礎から最後は実用化に至る時に、どうしてもうまくいかない側面もあります。この間に死の谷と言われている規制やら、お金がないといったことで頓挫してしまうものも多いです。この実用化に至るまでの道筋を、いかに側面でサポートしてあげられるか、そういったところが大きな課題であると考えております。

小野寺委員

それでは、未病産業について、今どんな状況なのかお伺いしたいんですが。
未病産業・ヘルスケアICT担当課長

最初の答弁の中で目指す姿ということで、日常生活に負荷をかけることなく、的確な健康管理が行われるような社会という話があったかと思うんですけれども、正に未病産業はそこに向かう一番確実な方法だと思っております。我々が未病産業としてこれからつくっていくわけですが、想定しておりますのは健康増進維持だけでなく、日々のデータ等をとってモニタリングして、日々の体の状態を分かっていく。それを情報として蓄積をして、体の状態を良くしていくことに資するというような産業でございます。

私どもとして今の課題と感じておりますのは、やはりまだ未病や未病産業という言葉が必ずしも十分に浸透しているとは言えないという状況でございます。今回の資料の中にもございますが未病産業研究会等の取組、ME-BYOの商標登録を使ったり、若しくはモデル事業を推進いたしまして、実際に未病産業がどんなものかというのを見ていただくということで理解を深めたいと思っております。

あともう一つの課題がエビデンスでございます。未病産業を創出するに当たって、その商品なりサービスが本当に有効なのかどうかというのが、非常に問題となってまいりますけれども、これは今いろいろ検討している、考えている最中でございます。

小野寺委員

それでは続けますが、先ほど来出ておりますCHO構想の推進で、これもヘルスケア・ニューフロンティアの一環だというふうに思いますが、このCHO構想の推進もまだ出て間もないものでございますけれども、これがこのヘルス

ケア・ニューフロンティアの推進にどういうふうに関わっていくのか、また、今後の課題も含めてお尋ねします。

健康企画担当課長

CHO構想は先ほど来答弁させていただいておりますが、健康経営を進めるという取組でございます。その中で普及策などの検討をするために、10月にコンソーシアムを立ち上げさせていただいたところでございます。

普及を図っていくには、もう一つの車輪としてサービスの提供というのが考えられまして、従業員の中にはなかなか健康づくりに関して無関心で、なかなか取り組めないという方も多くいらっしゃいますので、コンソーシアムの検討を通じて従業員の方が健康状態を把握できるような正しいサービスモデル、こんなようなのができるということを期待しているところでございます。

課題につきましては、このサービスの提供を図っていくということで、やはり利用者であるCHOを導入している企業が増えないと、なかなかサービスの広がりというものもないので、その普及拡大というのは今後の課題として重く受け止めて進めてまいります。

小野寺委員

先ほどから課題というのを聞いていると周知だとか普及だとか、まだまだその辺りのところにいるのかなというように思いますが、これは知事のおっしゃるところの経済のエンジンを回しながら、県民の福祉を増進するという両面の効果があるということで、さがみロボット産業特区に発展いたしましたけれども、このロボット産業の取組が、ヘルスケア・ニューフロンティアの中でどういう位置にあるのか、今後、進むべき道のどの辺りに、今のロボットの産業というのが達しているのか、その辺りを答えてくれますか。

産業労働局企画調整担当課長

さがみロボット産業特区の取組につきましては、これは正しく二つのアプローチの中でも、最先端医療、最新技術の追及、こういったものの一翼を担っていくということでございます。

少子高齢化社会の進展によりまして、今後ますます生活支援のニーズというものが高まっておりまして、そういったものに対しロボットの実用化を図ることによりまして、地域の安全・安心の実現、それと地域経済の活性化を目指す。こういったものを通じまして、新たな市場や産業の創出につながる取組であると考えています。

具体的には、現在の介護医療、高齢者の生活支援分野でのロボットの開発が進められておまして、医療ロボットや介護ロボットはもちろんのこと、見守りロボットでありますとか、コミュニケーションのロボット、こういったものも開発が進められております。

現在の生活支援ロボットにつきましては、実証実験や実用化等についての取組が進んでおります。今後の課題といたしましては、こうした商品を早く実用化させて、その市場創出と今後の社会に定着させるということが当面の課題と認識しております。

小野寺委員

今お答えいただいた様々な分野や今後の取組については、今日は触れることはございませんけれども、しっかり具体的に進むように手を打っていただきたいと思います。

また、超高齢社会を生きるということでは、当然、諸外国でも同じような課題を抱えていると思います。今、県としては先ほど来お話が出ていますけれども、アメリカ、アジア、ヨーロッパそれぞれの国々と様々な国際戦略を展開しているということでもありますけれども、今日これまでの御答弁と重なる部分があるかもしれないですけれども、その国際戦略の展開についても、このヘルスケア・ニューフロンティアの中の位置付け、同じような聞き方になりますが、お答えいただきたいと思います。

ライフイノベーション担当総括主幹

国際展開とヘルスケア・ニューフロンティアのつながりでございますが、やはり二つございまして、一つは先ほども御答弁させていただきましたが、ライフサイエンス分野における県内企業の優れた技術や商品を海外に出していく。海外に出して日本と、もしかしたら同時ぐらいに海外で売っていくことによって、日本の企業や県内の産業が発展していき、雇用が創出されるといった面でございます。

それから、もう一つは入れる方でございますけれども、国際的な営業体制をつくって、海外にその優れた製品技術、あるいはもしかしたら社会システムを先進国から県内に入れていくことによって、県民の皆様には新しい社会システム、あるいは新しい技術が来たというような実感を持っていただけるような、海外からのインバウンド、こういったものを達成していければという点がございませぬ。

また、課題でございますけれども、やはり今までの委員のお言葉を借りますと、種は結構まいてきました。その種から、いかに芽を出させるか、そして深めていくかというところが1点。もう一点は、実はまだ種をまかなければいけないんですけれども、まいていない地域と言うか国もあります。そういったどこを選んで、どう種をまいていくかといったところが課題だろうと思っております。

小野寺委員

また同じお話になりますが、医療分野におけるイノベーションを実践する国際的人材を養成するというところで、メディカル・イノベーションスクール構想、これについても同じ聞き方をしたいと思いますが、いかがでしょうか。

国際的医療人材担当部長

メディカル・イノベーションスクールでは、例えば医学のみならず工学や経営学など、複数の分野の知識から海外に発信し、最先端医療の進展や未病産業の発展を担うことのできる人材を養成しようとしております。

このような人材は、ヘルスケア・ニューフロンティアを担う人材の中核になると考えておまして、こうした人材を養成することは県の取組を推進する役割を果たしていくことになると思っております。

課題といたしましては、先ほど来申し上げていますように、スピード感をもってこの実現に向かって取り組むということ。もう一つはこのスクールで養成する人材が真にヘルスケア・ニューフロンティアを担う人材となるように、カリキュラムですとか、それからキャリアパス、こういったものを工夫していくことが必要だと思っております課題だと思います。

小野寺委員

今、特にこの課題については、相当高い壁も想定されるということなので、しっかりと取り組んでいていただきたい。

今、様々な質疑をしてきて、このヘルスケア・ニューフロンティアの旗の下に行われている様々な事業の輪郭みたいなものが説明できたと思うんですが、今度は三つの特区、この特区制度の活用、ヘルスケア・ニューフロンティアの実現と特区制度の活用について整理をしたいと思いますが、お答えいただきたいと思っております。

特区連携担当課長

神奈川県内にある三つの特区、それぞれにおきまして、様々な支援や連携が

用意されています。例えば京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区は、現在の規制の特例措置の他、財政、税制、金融上の規制措置があります。例えば財政上の規制措置につきましては、ハード面やソフト面でこれまでの支援の合計は約46億円に上っています。また、国家戦略特区で様々な規制改革項目が議論されております。先日開催されました東京圏の区域会議において区域計画が了承され、本日決定されたところでございます。今後も更なる規制改革に取り組んでまいります。

こういったことで、今後も引き続き特区の制度を活用しながら取組を進めてまいりたいと考えております。

小野寺委員

このヘルスケア・ニューフロンティアの輪郭、あとは三つの特区をどう活用していくのか、概括的なお話がありましたけれども、全体を通して、これまでのこのヘルスケア・ニューフロンティアの実現に向けた取組をどのように自己評価されているのかお伺いします。

事業統括部長

今まで取組のお話をさせていただきました。正直申し上げて、まだまだ道半ばだとは思っております。しかしながら先ほどから申し上げておりますように、いろいろな動きの芽が出ております。そして個人さらには企業、国や海外からもそうでございますが、神奈川の取組に対して非常に高い関心を持っていて、いろいろなアイデア、あるいは提案といったものが我々に寄せられております。我々としては、取組が1年半でございますけれども、外部に対していろいろな説明を通じた発信が行き届きつつあるのかなと受け止めております。そうした中、我々としてはこうした取組を更に一層加速化していくということで、様々な施策ツール、特区もそうですし健康医療戦略もそうでございます。そうしたものを最大限活用して、少しでもその成果を目に見える形にこれから進めていきたいと考えております。

小野寺委員

今、発信を続けているところだというお話がありました。

先ほど質疑の中で、一緒にパートナーとしてやっていく横浜や川崎との関係はどうなんだという議論がありましたけれども、一つ確認をしたいんですが、このヘルスケア・ニューフロンティアということは、今更お尋ねするのもなんだと思いますが、これは知事のオリジナルの言葉でございますか。

事業統括部長

知事オリジナルの言葉です。

小野寺委員

この国家戦略特区の提案で素案を読むと、健康・未病産業と最先端医療関連産業の創出による経済成長プラン、ヘルスケア・ニューフロンティアの実現に向けて提案をされましたけれども、これはこの言葉が生きたまま認められたということによろしいのでしょうか。

事業統括部長

そのように理解しております。

小野寺委員

このヘルスケア・ニューフロンティア政策に関して、私たちも仲間の議員といろいろ意見交換などもしているんですが、私が話した市会議員の方が、たまたま勉強不足だったのかもしれませんが、ヘルスケア・ニューフロンティアという言葉に対して、ちょっとぼかんとしているようなところがありました。それは横浜市会の方だったんですけれども、本当に先ほどのお話もありましたけれども、言ってみれば黒岩用語でつくられた、このヘルスケア・ニューフロンティアと国家戦略特区も含めて、これがどの程度、意識として横浜市や川崎市と共有できているのかという心配は私もしております。これは先ほど横浜、川崎の市長が区域会議に出席していないという話でしたよね、そういう話もありましたけれども、林市長や福田市長もヘルスケア・ニューフロンティアという言葉を使って、この政策をそれぞれ推進しようとしているのかどうか、もし御存じでしたらお答えいただきたいと思います。

事業統括部長

さすがに県の政策の言葉でございますので、市長がその言葉自体を使ったところ、ちょっと記憶にございません。しかしながら3団体によります京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区協議会がありまして、ここは3首長が必ず出ております。そういう中では、当然知事もこのヘルスケア・ニューフロンティアの取組のお話をさせていただきますし、両市長からは特にこの中で未病という取組については、非常に重要な取組だということで、御賛同いただいていると受け止めております。

さらに、先ほどの御質問にありました国家戦略特区の提案についても、これも横浜市、川崎市と共同で出させていただいておりますので、その辺について

のオーソライズと言いましょうか、御認識は頂いていると思っております。

小野寺委員

ヘルスケア・ニューフロンティアそのものは県の政策だけれども、国家戦略特区の提案においては共同で出されているということですよ。市町村との連携というのは、すごく重要だと思うんですけども、今の議論も踏まえて、これをどのように考えていらっしゃるのか、改めてお聞きしたいと思います。

特区連携担当課長

ヘルスケア・ニューフロンティアの取組を充実させるためには、県だけではなくて、地元の事情をよく理解している市町村と連携や協働をしながら、事業をしていくことが大切であると考えております。

例えば京浜臨海ライフイノベーション国際戦略総合特区では、大学や研究機関が出席して、最先端医療の研究開発を横浜市や川崎市と共同して一体となつて進めているところでありますし、ロボット産業特区についても区域内の関係市町と連携した取組が進められています。

また、県西地域の市町に対しては、未病産業の創出に向けた取組として来年秋に予定している、未病サミットの開催に御協力いただけるよう働き掛けているところです。

最後に国家戦略特区の関係では、地域の活性化に資する更なる規制改革事項の提案がなされるよう、区域指定の時期から継続して市町村との意見交換を行っているところでございます。

このようにヘルスケア・ニューフロンティアの推進に当たりましては、様々な機会を通じて市町村との連携を図っているところであり、今後も県全体で一体感をもって事業を実施していけるように連携してまいりたいと考えております。

小野寺委員

ヘルスケア・ニューフロンティアというのは単なる言葉だけではなくて、このコンセプトと言うか、それを指し示す概念をそのまま表す言葉でありますよね。ですから先ほど、これはあくまでも県の政策であるから、それぞれの市長さんの口からこの言葉がそのまま生で出るとは恐らくないだろうというのは理解するところなんですけど、このコンセプトの共有みたいなものはしっかりやっていないと、やはり同じ方向を向いて足並みをそろえてこの事業が進んでいくというのは難しいと思っておりますので、本当にくれぐれもよろしくお願いをし

たいと思います。

そしてまた、先ほど私の前にも質疑がありましたけれども、このヘルスケア・ニューフロンティアの取組について、一般県民の方々の理解を促進するためには、やはり目に見える形でこのヘルスケア・ニューフロンティア、あるいは今まで御説明いただいたヘルスケア・ニューフロンティアの実現に向けた道筋、今、そしてどの程度まで進捗しているのかというようなことを目に見える形で示すということがすごく大事だと思うんですけれども、これほどのように進めていきますか。

特区連携担当課長

委員御指摘のように県民の皆様を理解を促進するためには、県民の皆様にも広く認知され、普及促進につながるような目に見える形での情報提供や普及啓発の取組が重要であると考えています。

例えば最先端医療分野の再生・細胞医療では、国内最大級のバイオ関連の展示会であるBioJapanなどを活用して、セミナーの開催や県の取組の紹介を行うなど、多くの関係者に向けて取組を発信しているところです。

未病産業では、未病産業研究会を通じて民間の事業者が共同でアピールするとともに、県の実施のフィールドとしてモデル事業を展開するなど、強く取組をPRしてきたところです。

さらに、海外でもME-BYOの商標登録を行い、企業とも連携しながらヘルスケア・ニューフロンティアへの理解を深めていただく取組を進めています。また平成27年度には海外で活躍している有識者などを箱根に招へいして、仮称ですが未病産業と神奈川2015 in箱根を開催したいと考えているとともに、現在、コンセプトづくりや民間企業との協力体制の構築などの準備を進めているところです。

このような取組を通じて、ヘルスケア・ニューフロンティアの取組を見える化し、県民の皆様にご体感していただくことで、県民を巻き込みながら県全体として盛り上げていけるよう、取り組んでまいりたいと考えています。

小野寺委員

目を見張るような進捗というのが、何よりもPRになると思いますので、種はまかれた、芽は出てきた、しっかりと花や実になるように頑張っていたいただきたいと思います。

最後になりますけれども、理事にちょっとお伺いをしたいと思いますが、今、

これまでの議論を踏まえた上で、ヘルスケア・ニューフロンティアの目指す姿、その実現に向けた今後の課題をどのように受け止めていらっしゃるのか、そして、今後それに対してどのように対応されていくお考えなのか、それをお伺いいただければと思います。

理事（ヘルスケア・ニューフロンティア・医療政策担当）

非常に崇高な御質問で、きっちりお答えできるかどうか分かりませんが、まずヘルスケア・ニューフロンティアの取組というのは、ある意味、次世代あるいは更に次の世代に向けて神奈川から社会モデルを構築して行って、世界に発信していくというのが大きな前提でございまして、そういう意味では終わりのない取組になっているということで、やはりその時代時代に生きる方々に、最適なヘルスケアのシステムを提供していくといった恐らく終わりが無い取組で、常に解決しない問題と色々な利益関係とかを調整しながら進んでいくものだと思いますので、それに向けた取組というのは、道が半ばであるのか、あるいは10%なのかというのは、ちょっと軽々にはお答えできないんですが、そういう理念の下で、まず何をやっていくかというところでは、端的に言うと、一つは我々は新しい価値をつくり出していくんだというのを大きな柱にしています。具体的に言うと、コストをバリューに置き換えていくと申しますか、今の医療費というのは全部コストとして見られていますので、がんになったら幾らかかったと、これは出したくないお金なんですよ。そのコストを誰が払うかというふうに調整しているのが今の日本の医療システムなんですが、それをある程度、予防的な段階で早期発見もそうですし、もっと言うと、未病への取組によっていろいろな病気を終末の医療コストではなくて、食生活とか運動であるとか、いろいろな取組にコストを払うということになると、この場合はコストではなくなります。普通にお食事をするとか、いろいろな活動をするというのは、要するに楽しくあり価値があるというもので、いかにそのコストを価値であるバリューに置き換えていくかといったことで、それに向けての時間軸、つまり日本の今の医療制度というのは、患者にかかったコストを誰がどういうふうに負担するかという、要するに将来のこういう病気を予防するというものに対して、今かかったものというのを社会システムとしてどうやってつくり上げていくという、ヘルスケアに時間軸を持ち込まないといけないということです。壮大な時間のかかる取組というのを、今まだ芽を出しているレベルなんですけれども、先を意識しながら取り組んでいるというところでご

ざいます。

そういう中で、どういうことが問題になっていくのかというと、今三つぐらい考えておまして、一つはやはりリソースにすらなっていない。これは資金的な面もそうですし、人的なリソースもそうですし、新たなことに取り組んでいるというのは県庁だけでなく、社会全体がまだリソースを投入できていなくて、今ある課題をクリアするためだけに必死になっているこの社会の中で、いかに未来に向けてこういうリソースを買い出して行って、今少しそっちのところを削ってでも、人的リソースに向けて次の時代をつくり出していかないといけないというのが大きな課題だと思っております。

二つ目の課題は、恐らくこういうシステムに移行する時の混在する時、この混在をどうしていくか、例えば極論しますと、いろいろな医学的な診断がロボットでできてしまう時代がくるかもしれません。いろいろな機能が日本のヘルスケアのシステムの中に入ってくるという時に、少し混乱するこの移行期をどういうふうにマネジメントしていくのかというのが非常に重要だと思っております。そこそがやはり神奈川が特区として取り組むべき時代として少しエリアを区切って、試行的に次の時代を可視化していくというのが必要になるかと思っております。これは二つ目の課題でございます。

最後は、そういうことを進めていくと三つ目の課題として思っているのが、結局、究極的には県民とか国民の死生観とか人生観にどうしてもつながってしまうところに行きます。終末期の医療に、ばく大なお金かかっていますけれども、これどうするのかというのは、必ず未病の概念と最期の概念は、一気通過に人生を考えていく時に、どうやって自分の人生を生きていくのかというようなところでどうしても行き着いていきまして、そういうような課題も意識しながらいくと、目の前の個別具体的な課題を一つずつ苦慮しながら蓄積していきたいと考えているというのが、今のところの取組の基本的な方向性として考えているところです。

小野寺委員

大変な崇高な理念をお聞かせいただいたと思っております。

今、新しい価値をつくるという理事の言葉もありましたけれども、今、死生観、人生観に最終的には関わってくるというお話もありましたけれども、やはりそういうところまで共有できていくと、本当にすばらしい結果が待っているのかなというふうにも思います。是非この社会モデルを構築して、世界に発信して

いくということ、これが実現をしていけば世界中の目が神奈川に向いてくると思います。

大変終わりが無いという、そういうお仕事になるかもしれませんが、是非その理念や哲学をしっかりといつも頭に描きながら、念頭に置きながら取り組むということが何より大切なんだと、今、理事のお話を伺いながら思いました。

本当に神奈川があらゆる面で先進県として、内外のヘルスケア関連施策をけん引するという、その気概をお持ちいただいて、積極的に事業を推進していただきたいということを要望させていただいて、私の質問を終わります。ありがとうございました。